

は隠岐諸島初記録と考えられ、カクチビキカワムシは島根県初記録に加え、日本海側での北限の記録になると考えられる。得られたアカツヤバナキチキムシの後腸を解剖し調べたところ、胞子のほかに植物体のようなものも確認された。よって本種に関しては、菌癭に特有に集まる種ではないと思われる。

考察

淡路島や四国、和歌山県において本菌癭で優占して確認されたドウイロムクゲケシキスイとカクチビキカワムシ (Funamoto & Sugiura, 2017) は、隠岐でも菌癭に優占していた。これらの種は成虫・幼虫共に確認され、腸内からは多くの胞子が確認されていることから胞子食であると考えられる (Funamoto & Sugiura, 2017)。しかしドウイロムクゲケシキスイの成虫は訪花性を示し、胞子 (菌癭) の専食ではないと考えられる (久松氏, 私信)。また、カクチビキカワムシについては、「暖地に多く、フジの枯れ蔓などに見られる」とされ (城戸, 2010)、本種も少なくとも菌癭の胞子を専食するものではないと考えられる。ヤブニッケイ黒穂病の菌癭はどこにでも見つかるものではないことから、その菌癭が無いところではその他の菌を食べているものと思われる。

カクチビキカワムシは一般に珍しい種とされる (平野, 2008)。しかし、西南日本、特に九州では比較的記録が多く、九州本土以外にも福岡市地ノ島、福岡市相ノ島、佐賀県高島などの離島からも記録されている (城戸, 1992, 1998)。おそらく紀伊半島以西の太平洋岸の照葉樹林には広く分布すると考えられ、今回隠岐で確認されたことから日本海側でも照葉樹林が見られる地域では確認される可能性が高い。フジの枯れ蔓 (城戸, 2010) や落葉層 (上野, 1993) からも採集されているが、

菌癭から得られる個体数の方が多くことから、ヤブニッケイに見られるヤブニッケイ黒穂病菌癭に着目することにより、より効果的に分布調査が行えると考えられる。

謝辞

現地調査に同行して頂いた十川晃一氏、菌癭に関して有用な情報を頂いた林成多博士 (ホシザキグリーン財団)、杉浦真治博士と船本大智氏 (神戸大学) にお礼申し上げる。また、甲虫類について情報を頂いた久松定智博士 (松山市生物多様性センター) と亀澤洋氏にもお礼申し上げる。

本研究はホシザキグリーン財団の共同研究の一環で行われた。

引用文献

- Funamoto, D. & S. Sugiura, 2017. Arthropods associated with fungal galls: do large galls support more abundant and diverse inhabitants? *The Science of Nature- Naturwissenschaften*, 104: 6.
- 城戸克弥, 1992. 福岡市周辺離島の甲虫類 [II] 相ノ島 (2). 北九州の昆虫, 39(1): 55-63.
- 城戸克弥, 1998. 福岡市周辺離島の甲虫類 [XIII] 地ノ島 (3). 北九州の昆虫, 45(1): 25-32.
- 城戸克弥, 2010. 佐賀県の離島で採集した甲虫類 [II]. 佐賀の昆虫, (45): 390-400.
- 宮武睦夫, 1975. ヤブニッケイの菌癭に集まる甲虫類. 四国虫報, (20): 102-104.
- Sasaji, H., 1988. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, IV. *Memoirs of the Faculty of Education, Fukui University, Ser II (Natural science)*, 38: 13-48.
- 上野輝久, 1993. 落葉層のヒラタムシ上科・ゴミムシダマシ上科. 昆虫と自然, 28(2): 11-18.
- 薄葉 重, 1981. ヤブニッケイのゴールに集まる昆虫類. 昆虫と自然, 16(6): 46-47.

(2017年2月1日受領, 2017年2月27日受理)

【訂正】

吉富 (2016) は、ヨツモンヒメテントウ *Nephus yotsumon* (H. Kamiya, 1961) を四国初記録として報告したが、既に相田ほか (1995) および宮武・相田 (2000) により愛媛県松山市および小田町 (現・内子町) にて記録があったので訂正する。

文献についてご教授くださった越智恒夫氏にお礼申し上げます。

引用文献

相田和博・岡田圭司・藤森健史・李 利珍・大林延夫・酒井

- 雅博, 1995. 演習林の鞘翅目, その5. (愛媛大学米野々演習林の昆虫相に関する調査資料, その9). 愛媛大学農学部演習林報告, (33): 65-77.
- 宮武睦夫・相田和博, 2000. 小田深山およびその周辺のテントウムシ科. 小田深山の自然 II: 455-464.
- 吉富博之, 2016. ヨツモンヒメテントウの四国における記録. さやばねニューシリーズ, (22): 22.

(吉富博之 愛媛大学農学部昆虫学研究室)